

平成 28 年度八戸市復興計画推進市民委員会意見への対応状況 (平成 29 年 4 月末現在)

2. 地域経済の再興

市では平成 28 年度に八戸市復興計画推進市民委員会を 4 回開催し、委員の皆様から御意見をいただきました。

本資料は、「2. 地域経済の再興」への御意見に対する平成 29 年 4 月末現在の市の対応状況についてとりまとめたものです。

なお、対応状況は、下記区分のとおりです。

【対応状況の区分】

- ＝意見を踏まえ対応に努めている
- △＝意見を参考に検討段階
- ×＝意見への対応が難しい

復興計画全体に関する総括意見

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
1	○	<p>「地域経済の再興」については、EU への輸出が可能な当市水産業の優位性の PR や畜産業の振興を図る取組、新産業団地の整備を推進するとともに、ユネスコ無形文化遺産登録が期待される八戸三社大祭の発展的支援やインバウンドを見据えた強力な PR 及び当市の世界に誇れる縄文文化の情報発信、中心街の魅力を引き出す取組など、各方面で積極的な観光振興に取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎当市水産業の優位性の PR について 【水産事務所】 意見No.9 で回答 ◎畜産業の振興を図る取組の推進について 【農林畜産課】 意見No.10 で回答 ◎新産業団地の整備の推進について 【産業労政課】 意見No.16 で回答 ◎八戸三社大祭の発展的支援やインバウンドを見据えた強力な PR について 【観光課】 意見No.19 で回答 ◎当市の世界に誇れる縄文文化の情報発信について 【是川縄文館】 意見No.20 で回答 ◎中心街の魅力を引き出す取組の推進について 【まちづくり文化推進室】 意見No.25 で回答 	<p>【水産事務所】 【農林畜産課】 【産業労政課】 【観光課】 【是川縄文館】 【まちづくり文化推進室】</p>

復興計画に掲げた4つの基本方向ごとの意見

2 「地域経済の再興」に関する意見

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
2		<p>水産業の再興については、東日本の水産業全体の復興に寄与する産業モデルを構築するため、水産関連企業に対し、対 EU 輸出が可能なレベルで高度な衛生管理を行うハサップの取得を働きかけるとともに、EU へ輸出できるフードチェーンのシステムが構築された全国初の生産地である優位性を市全体で強く PR する必要がある。</p>	【水産事務所】
	○	<p>◎水産関連企業に対するハサップ取得の働きかけについて 意見No.8 で回答</p> <p>◎EU へ輸出できるシステムが構築された当市水産業の優位性の PR について 意見No.9 で回答</p>	
3		<p>農林畜産業の再興については、畜産業の振興や畜産関連企業の誘致促進のため、畜産施設規模要件基準の緩和について引き続き県に対し要望するとともに、農業における人手不足の解消を図るため、果樹等の収穫体験だけでなく、出荷作業も体験できるプログラムを検討する必要がある。</p>	【農林畜産課】 【農業経営振興センター】
	各対応状況 のとおり	<p>◎畜産業の振興や畜産関連企業の誘致促進について 【農林畜産課】 意見No.10 で回答</p> <p>◎農業における人手不足の解消を図るためのプログラムの検討について 【農業経営振興センター】 意見No.13 で回答</p>	
4		<p>企業活動の再興については、企業誘致促進のため、新産業団地の整備を推進するとともに、国内におけるポートセミナーの新たな開催地の検討や、企業が海外販路拡大を図るため、海外マーケットの状況等の情報発信に努める必要がある。</p>	【産業労政課】 【商工課】
	各対応状況 のとおり	<p>◎新産業団地の整備の推進について 【産業労政課】 意見No.16 で回答</p> <p>◎国内におけるポートセミナーの新たな開催地の検討について 【商工課】 意見No.17 で回答</p> <p>◎海外マーケットの状況等の情報発信について 【商工課】 意見No.14 で回答</p>	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
5	<p>観光・サービス業の再興については、ユネスコ無形文化遺産への登録が期待される八戸三社大祭の山車製作場所等の支援やインバウンドを見据えた強力な PR、当市の世界に誇れる縄文文化の情報発信の強化、南郷地域との更なる連携による観光素材の PR、市民が八戸市の文化・歴史・産業などを知ることができる体験型イベントの開催、中心街の魅力を引き出す取組の推進など、各方面において積極的な観光振興に努める必要がある。</p>		<p>【観光課】 【是川縄文館】 【まちづくり文化推進室】</p>
	○	<p>◎八戸三社大祭の山車製作場所等の支援やインバウンドを見据えた強力な PR について 【観光課】 意見No.19 で回答</p> <p>◎当市の世界に誇れる縄文文化の情報発信の強化について 【是川縄文館】 意見No.20 で回答</p> <p>◎南郷地域との更なる連携による観光素材の PR について 【観光課】 意見No.22 で回答</p> <p>◎市民が八戸市の文化・歴史・産業などを知ることができる体験型イベントの開催について 【まちづくり文化推進室】 意見No.24 で回答</p> <p>◎中心街の魅力を引き出す取組の推進について 【まちづくり文化推進室】 意見No.25 で回答</p>	

個別の施策・事業に対する意見

2 「地域経済の再興」

(1) 水産業の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
6	<p>今後の漁獲量の低下に不安を持っている漁業関係者がいることから、養殖事業やそれに関連する餌の研究について情報提供と意見交換の機会を設ける必要がある。</p>		【水産事務所】
	△	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸海域での養殖や蓄養における環境的課題や法的課題、飼育方法等を県水産事務所に相談しつつ、養殖や蓄養の可能性について検討しています。 ・また、八戸市の環境条件で養殖可能な魚種を検討中です。 	
7	<p>ハサップ対応型荷捌き所の稼働率向上のため、施設利用・運用の改善を図るなど、利用者の利便性を高める取組を検討する必要がある。</p>		【水産事務所】
	△	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年 4 月 24 日に第 3 回荷さばき所 A 棟稼働率向上検討会を開催し、水産業関係者との連携のもと、稼働率向上に向けた事業の検討を進めています。 ・魚類保管容器(200 トン対応)を準備し、運搬車両の手配等搬出作業の進み具合に関わらず、水揚げが可能な体制を整備しています。さらに平成 29 年度は 325 トン対応分を追加購入予定です。 	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
8		当市において全国に先駆けて EU へ輸出できるフードチェーンのシステムが構築されたことから、積極的に水産関連企業に対しハサップの取得を働きかける必要がある。	【水産事務所】
	○	市内5社の加工場を訪問し、EU登録施設である荷さばき所A棟のPRとともに、EU認定取得の意向調査を実施しており、今後も他の加工場の意向調査を継続予定です。	
9		当市がハサップの基準をクリアしている全国初の生産地である優位性を市全体で強くPRし、当市の水産業の更なる振興に努める必要がある。	【水産事務所】
	○	平成28年6月に、荷さばき所A棟をPRするため、市民を対象とした荷さばき所A棟の見学会を実施しており、今後も継続予定です。	

(2) 農林畜産業の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
10		畜産業の振興や畜産関連企業の誘致促進のため、畜産施設規模要件基準の妥当性について話し合うとともに、基準の緩和について引き続き県に対し要望する必要がある。	【農林畜産課】
	○	<p>◎畜産業の振興や畜産関連企業の誘致促進について</p> <p>地場産畜産物の消費拡大及び畜産への地元理解促進を目的に、今年度も「親子畜産探検バスツアー」、「八戸地域畜産フードフェア」を開催する予定です。</p> <p>◎畜産施設規模要件基準の緩和に係る県への要望の継続について</p> <p>今年度も、環境影響評価を所管している県に対し、平成29年7月に最重点要望として環境影響評価に係る畜産施設の規模要件緩和を要望する予定となっております。</p>	
11		観光農園のPRのため、インターネットで検索しやすく見やすいホームページを作成するとともに、スマートフォンでの表示への対応が必要である。	【農業経営振興センター】
	△	より見やすいホームページを作成するとともに、スマートフォン表示についても検討します。	
12		農産物や水産物について、地元食材を利用した加工品の購入やレストランでの食事ができるなど、観光客が一年を通じて八戸ブランドの食を楽しめる仕組みが必要である。	【農業経営振興センター】 【水産事務所】
	○	<p>【農業経営振興センター】</p> <p>農産物については、一年を通じて加工品の販売や一部のレストラン等において、食事が提供されており、さらなる情報発信量の拡大を図ります。(平成24年度から実施)</p> <p>また、ブルーベリー、さくらんぼ、いちご、りんご等9品目の観光農園があり、通年体験可能です。</p> <p>【水産事務所】</p> <p>八戸市営魚菜小売市場では、魚を中心として安くて新鮮な商品があります。食事コーナーではご飯・汁物も販売され、市場内で購入したものと一緒に食事をする事ができ、観光客も訪れています。</p>	
13		農業における人手不足の解消を図るため、果樹等の収穫体験だけでなく、選果・箱詰め等の出荷作業も体験できるプログラムを検討するなど、農園の充実を図る必要がある。	【農業経営振興センター】
	△	体験プログラムの一つとして、農業経営者が検討できるよう情報提供する予定です。	

(3) 企業活動の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
14		企業が海外販路拡大に向けて踏み出せるよう、海外マーケットの状況や各種支援策に関する情報の発信に努める必要がある。	【商工課】
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・JETRO 等が開催する輸出や貿易に関するセミナー等の情報を企業へ提供し、参加を促しております。 ・また、各種補助金制度や国際見本市、商談会の開催情報なども情報提供を行っています。(随時実施中) 	
15		地域産業の国内外への販路拡大については、今後も継続して事業者への情報提供や働きかけを行う必要がある。	【商工課】
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・意見No.14 で回答した各種支援事業の情報提供のほか、ロサンゼルス市でのプロモーションを平成 28 年 10 月に実施、ベトナムでの商談会及び物産展を平成 29 年 1 月に実施するなど、継続的に事業を企画・実施し、企業への参加働きかけを行いました。 ・平成 29 年度は、シアトル市でのプロモーションやベトナムでの商談会・物産展を継続するとともに、10 月には天津からのバイヤー招聘事業を予定しています。 	
16		新産業団地の整備について、候補地の選定にあたっては港とのアクセスなどを検討し、企業誘致促進のためにも早期完成を目指す必要がある。	【産業労政課】
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度に選定された開発予定地について、平成 29 年度は地域説明会を実施し、開発区域の決定、団地全体のレイアウトの検討、概算事業費等を算出する基本計画の策定を行います。 ・また、法規制に係る関係機関との協議を進めます。 	
17		更なる八戸港の利用促進を図るため、東京と名古屋以外の都市での国内ポートセミナーの開催を検討する必要がある。	【商工課】
	△	<ul style="list-style-type: none"> ・関西地域の商社・物流業者等を対象とした大阪市内での開催に向け、県港湾空港課ロジスティクス推進グループ大阪分室と情報交換しながら検討を進めています。 ・また、県内では、津軽のりんごをターゲットとした輸出貨物集荷を目的として、開催を検討中です。 	
18		あおり生業づくり復興特区について、進出してくる企業などにも有効な制度であることから、制度の継続的実施と更なる事業所への周知に努める必要がある。	【商工課】
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・制度開始当初から、「広報はちのへ」及び地方紙に制度概要を掲載し、広報しています。 ・本制度による法人税の特例措置は平成 32 年度末までとなっており、今後も周知を継続してまいります。 	

(4) 観光・サービス業の再興

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
19		<p>当市の観光産業の中で大きなウェイトを占める八戸三社大祭について、ユネスコ無形文化遺産への登録が期待されることから、恒久的な山車製作場所の確保等への支援に努めるとともに、インバウンドを見据え、世界に誇れる山車祭りとして強力にPRしていく必要がある。</p>	【観光課】
	○	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸三社大祭の山車は、伝統的に各町内の山車小屋で製作され、そこに地域の人々が参加することによって受け継がれてきた祭りです。そのため、製作場所は、山車組が主体となって各地域に確保することが望ましいのですが、現在、山車製作用地を確保できない一部の山車組については、市有地を一時的に山車製作用地として提供しています。これらの山車組については、山車製作用地として適当な土地がないか、市有地、民有地を問わず引き続き情報収集を行っています。 ・平成29年度は、約65万部発行・JR東日本の全新幹線・全座席に搭載される車内誌「トランヴェール」6月号への広告掲載、一週間で8,000万人以上が利用する首都圏JR主要8路線の車内デジタルサイネージ「トレインチャンネル」における動画広告放映を実施するほか、多言語(日・英・繁・簡・韓)に対応した八戸三社大祭PR動画を制作するなど、ユネスコ無形文化遺産登録を契機として知名度の向上を図ります。 	
20		<p>是川縄文館には世界に誇れる展示物があることから、海外も含めてさらにPRを強力にし、縄文文化の情報発信に努める必要がある。</p>	【是川縄文館】
	○	<p>英語版のパンフレットやホームページ作成等、外国語での情報発信に取り組んでいますが、なお一層研究し、PRを行ってまいります。(平成25年度から実施)</p>	
21		<p>観光PRにあたっては、各イベントの経済効果や来場者数などの数値データを把握・分析し、客観的なデータに基づき戦略的な取組を検討する必要があります。</p>	【観光課】
	○	<p>平成29年度は種差海岸の利用者計測カウンターの設置、及び広域観光マーケティング調査を実施し、これらのデータを各種施策に活用してまいります。</p>	
22		<p>南郷ツーリズムを推進するため、南郷地域との連携をさらに深め、それぞれの観光素材の良さを引き出す必要がある。</p>	【観光課】
	○	<p>山の楽校と連携し、南郷地域への誘客に努めています。また、南郷に関連する事業の担当課とも連携を図りながら、観光素材の共有とPRに努めます。</p>	
23		<p>タブレット端末やスマートフォンからでも簡単に観光情報が分かるよう、アプリケーションの開発により、広く情報を発信する必要があります。</p>	【観光課】
	○	<p>引き続き大日本印刷が運営するよりみちアプリ「YORIP」、八戸観光コンベンション協会が運営する「八戸観光ナビ」などによる観光情報を発信します。</p>	
24		<p>はちのへホコテンについては、復興支援の観点から、子どもを含む市民が八戸市の文化・歴史・産業などを知るために体験などを通じて楽しく取り組めるよう更なる工夫が必要である。</p>	【まちづくり文化推進室】
	○	<p>平成28年度ホコテンにおいては、八戸観光コンベンション協会と八戸商工会議所の協力の下、クイズ形式の八戸ふるさと検定を実施しました。 平成29年度においても、当市の文化・歴史・産業を楽しく知ることができる取組について、はちのへホコテン実行委員会と協議し、実施してまいります。</p>	
25		<p>中心街については、コア地域としての機能を有し、他には代えがたいポテンシャルがあることから、今後も魅力を引き出すよう努める必要がある。</p>	【まちづくり文化推進室】
	○	<p>はっちや昨年オープンした八戸ブックセンター、今後整備する「マチニワ」や美術館等の公共施設と中心商店街とが一体となって、中心市街地の魅力を引き出すよう取り組んでまいります。</p>	

No.	意見の内容		【担当課】
	対応状況	対応内容	
26	八戸三社大祭などのイベントの際のごみの処理について、分別・リサイクルするよう全市的な意識の醸成に努める必要がある。		【観光課】 【環境政策課】
	○	<p>【観光課】 八戸三社大祭の際のごみは、出店者が設置したゴミ箱に捨てていただくか、持ち帰っていただくことが基本と考えております。お祭り終了後は、出店者が自主的にゴミ片付けを行っているとともに、お祭りの前後に、はちのへクリーンパートナー等による清掃活動が実施されており、平成 28 年度は延べ 13 団体 452 名が会場の清掃活動を行っております。</p> <p>【環境政策課】 ごみの分別・リサイクル意識の醸成については、様々な機会を捉えて各種施策を行っているところであります。 公共施設や商業施設における環境講座の開催や、各種団体からの要望に合わせた環境に関する出前講座を実施しております。 また、家庭での分別やリサイクル意識の向上を目指して、啓発封筒を作成し、大規模商業施設において手渡し配布を行いました。加えて、市内の事業者に向けて、商工会議所の発行する商工ニュースに、事業系ごみに関する啓発チラシを折り込むなど、広くごみの適正排出や分別、再資源化への意識の高揚を図っております。</p>	